

令和7年度 学校評価アンケートの結果について

以下、アンケート結果を抜粋して分析・検討した内容をお知らせいたします。

本校は、「自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる生徒の育成」を学校教育目標として掲げ、日々の教育活動に取り組んでまいりました。この度実施した学校評価アンケートでは、生徒・保護者・教職員のいずれにおいても、多くの項目で評価平均値が「3」を上回り、全体として肯定的な回答が多い結果となりました。昨年度と比較しても、評価平均値は概ね同程度を維持しており、本校の教育活動が一定の評価を得ているものと受け止めています。

特に、生徒の回答結果のうち、「Ⅱ1 明るく前向きな姿勢で学校生活を送っている」「Ⅱ3 友達の良さを理解し、大切にしている」「Ⅱ10 諸活動に他の生徒と協力しながら意欲的に取り組んでいる」の評価平均値が非常に高く、多くの生徒が自分自身や周囲の人を大切にしながら、協調的かつ充実した学校生活を送ることができているということがわかりました。また、「Ⅱ7 係活動に対して責任をもって取り組んでいる」についても生徒の自己評価が高く、望ましい集団生活を送ろうとする姿勢が育まれていると考えます。

学習面においては、「Ⅰ3 多様な学習方法の工夫」および「Ⅰ4 生徒が活動する場面を設定した授業」に関する質問に対して、教職員による評価だけでなく生徒による評価も肯定的回答率が高い結果となりました。授業において、教職員が「確かな学力」の育成をするために様々な工夫を凝らしていることを、生徒自身が実感しながら学習に取り組んでいると推察します。日々の授業を通して、学ぶことへの意欲や理解が着実に深まっていることは、大きな成果であると考えます。一方で、「Ⅱの5 授業中の発表」については、依然生徒による回答平均値は「3」を下回っています。自分の考えを他者に伝えること、特に大勢の前で発言することについては、苦手意識をもっている生徒が多く、一層の工夫が必要です。学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、「他者との協働」も大切な要素となります。今後も引き続き、生徒の実態に応じて工夫した学習指導を進めて参ります。

保護者に対するアンケート結果においては、全体として肯定的回答率が高いものの、生徒や教職員の評価と比べると、評価平均値がやや低めの項目もありました。例えば、「Ⅱ9 挨拶」に関する質問では、生徒自身は「できている」と感じている一方で、保護者および教職員の回答平均値には「0.5」程度の差が生じています。このような認識の違いは、成長過程にある生徒の姿を多面的に捉えるうえで重要な視点であり、今後の指導や支援に活かしていきたいと考えています。

今回のアンケート結果から、生徒が安心して学校生活を送り、前向きに学びや人間関係を築いている姿が改めて確認できたとともに、家庭と学校がより一層連携することの大切さも再認識いたしました。アンケートの結果を真摯に受け止め、生徒一人一人の健やかな成長を支えることができるよう、今後も教育活動の充実に努めてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。